

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

氏名 劉 明	職名 教授	博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 学位 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕
--------	-------	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違、インバウンド観光の人材育成

研 究 課 題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について 5. インバウンド観光対応型の人材育成について

担 当 授 業 科 目
観光学入門 (前期)
インバウンド観光論 (前期)
観光マーケティング論 (前期)
アジア観光文化地理Ⅰ (前期)
初年次セミナー (前期)
専門演習Ⅰ (前期)
ホスピタリティ論 (後期)
観光社会学 (後期)
アジア観光文化地理Ⅱ (後期)
旅行商品企画論 (後期)
経営学入門 (後期)
専門演習Ⅱ (後期)
卒業研究 (通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【観光学入門】</p> <p>「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。</p> <p>さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。</p>

<p>授業科目名【インバウンド観光論】</p> <p>「インバウンド観光論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア、欧米特に中国、韓国、アメリカ、イギリスなどの国からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。</p>
<p>授業科目名【観光マーケティング論】</p> <p>「観光マーケティング論」では、観光サービスに関するマーケティングを取り上げる。観光産業に特有の観光マーケティング、観光まちづくりを担う組織などが主体となるデスティネーションマーケティングをそれぞれ事例を基に紹介していく。観光を学ぶ学生たちに観光産業及び観光地域でのマーケティング事例を分かりやすく紹介し、それらの事例を通して、観光マーケティングの魅力とその理論のエッセンスを理解してもらえるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】</p> <p>「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー】</p> <p>初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のITC活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【専門演習Ⅰ】</p> <p>「専門演習Ⅰ」では、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。</p>
<p>授業科目名【ホスピタリティ論】</p> <p>ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【観光社会学】</p> <p>本講義では、観光社会学が観光を捉える視点や方法を説明し、研究対象の新しい観光と多様化する観光形態を現代社会の動向に絡めて紹介する。また、観光社会学の事例研究の成果を解説する。また、質問をしていただき、学生達の関心あることについて話をする。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。さらに、授業の感想や提案などを学生に書いてもらい、学生との交流を図る。</p>
<p>授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】</p> <p>「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【旅行商品企画論】</p> <p>「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。</p> <p>また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。</p>

授業科目名【経営学入門】

本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。

授業科目名【専門演習Ⅱ】

「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」に続き、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。

授業科目名【卒業研究】

「卒業研究」では、時間をかけて、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。

また、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

さらに、地域貢献活動について、後輩たちへの指導を求めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会		1994年09月－現在に至る
日本観光研究学会		2001年01月－現在に至る
余暇ツーリズム学会		2007年12月－現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 夢実現の環境づくりについて ー東京インバウンド観光研修を事例として	単	2023年 3月	余暇ツーリズム学会誌 第10号	<p>観光文化学科の多くの学生の夢は観光産業で働くことである。その夢を実現するには、大学の環境づくりは大事だと考える。</p> <p>観光文化学科では、産学官連携を重視し、より実践的な観光専門教育の実現に取り組んでいる。旅行業・宿泊業・航空業等それぞれの業界で研修などを実施し、プロの現場でプロから直接学ぶことでインバウンド観光の人材を育成している。</p> <p>本論文は、2014年-2019年6年間にわたって実施した東京インバウンド観光研修を事例として、学生が夢を持てるように、学生の夢を実現することが出来るようになるには、どのような環境づくりが必要なのか及び観光教育のあり方を明らかにすることを目的としたものである。</p>
(学会発表) 夢実現の環境づくりについて ー東京インバウンド観光研修を事例として	単	2023年 1月28日	余暇ツーリズム学会 2022年度九州支部会 (福岡市赤煉瓦文化館)	<p>本研究発表は、2014年-2019年、6年間にわたって実施した東京インバウンド観光研修を事例として、学生が夢を持てるように、学生の夢を実現することが出来るようになるには、どのような環境づくりが必要なのか及び観光教育のあり方を明らかにすることを目的としたものである。</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

1. 人事委員
2. 国際交流委員
3. 教職員研修委員